

道標 (みちしるべ) 第 630 号

平成 25 年 3 月 15 日

校長 稲垣 達也

服務研修会資料

ヒヤリ・ハットを「事故」にしない。事故を「事件」にしない。

「ヒヤリハット」

※ だから、速やかな報告、連絡、相談が肝！！である。

ヒヤリ・ハットとは、重大な災害や事故には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の事例の発見をいう。文字通り、「突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの」である。ヒヤリ・ハットは、結果として事故に至らなかったものであるのもので、見過ごされてしまうことが多い。すなわち「ああよかった」と、直ぐに忘れがちになってしまうものである。

しかし、重大な事故が発生した際には、その前に多くのヒヤリ・ハットが潜んでいる可能性がある。ヒヤリ・ハットの事例を集めることで重大な災害や事故を予防することができる。そこで、職場や作業現場などではあえて各**個人が経験したヒヤリ・ハットの情報を公開し蓄積または共有することによって、重大な災害や事故の発生を未然に防止する**活動が行われている。

このような活動は、ヒヤリ・ハット・キガカリ活動とも呼ばれる。ハインリッヒの法則は、「重大事故の陰に 29 倍の軽度事故と、300 倍のニアミスが存在する」ということを示したもので、この活動の根拠となっている。（出典：ウィキペディア）

「事故」と「事件」

※ 服務事故は法令違反なので、処分の対象となる。

〔事故〕・・・犯罪の嫌疑のない事実

〔事件〕・・・犯罪の嫌疑がある事実（故意か過失かは問わない）

【事故】→ 思いがけず生じた悪い出来事。物事の正常な活動・進行を妨げる不慮の事態。よくないことが起こること。さしさわり。

【事件】→ **世間が話題にするような出来事。**問題となる出来事。

キーワードは ×「隠ぺい」「偽造」 ◎「初期対応」「スピード」

「隠ぺい」と「偽造」＝**自己保身** 大津市 いじめで自殺
大阪市 体罰で自殺

「初期対応」がすべて 例「いじめ」の場合

〔当事者〕	加害者の児童	〔その他〕	教職員
	被害者の児童		当該学級 児童と保護者
			〃 学年 児童と保護者
			〃 学校 児童と保護者
〔関係者〕	担任・校長など		
	加害者の保護者	〔関係機関〕	教育委員会指導室
	被害者の保護者		児童相談所 など

第三者の出番を作らせない「スピード」

『理不尽な要求』『交換条件』『やくざの理論』（〇〇しないと、△△するぞ）には、絶対に屈しないこと。

教職員の主な非行に対する標準的な処分量定 東京都教育委員会 平成 20 年 3 月 1 日教育長決定

体罰	悪質若しくは危険な暴力行為である場合、傷害の程度が重い場合、隠ぺいや常習性がある場合等を総合的に判断	免職 停職
	暴力行為で、傷害があり、事後処理が不適切である場合	減給 戒告